

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月8日

【四半期会計期間】 第82期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 神鋼鋼線工業株式会社

【英訳名】 Shinko Wire Company,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 小 南 孝 教

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市中浜町10番地1

【電話番号】 06 - 6411 - 1051 (代表)

【事務連絡者氏名】 総務本部企画部長 吉 田 裕 彦

【最寄りの連絡場所】 兵庫県尼崎市中浜町10番地1

【電話番号】 06 - 6411 - 1051 (代表)

【事務連絡者氏名】 総務本部企画部長 吉 田 裕 彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第81期 第2四半期 連結累計期間	第82期 第2四半期 連結累計期間	第81期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	13,903	13,720	27,717
経常利益 (百万円)	364	394	989
四半期(当期)純利益 (百万円)	208	199	536
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	204	267	597
純資産額 (百万円)	19,001	19,375	19,289
総資産額 (百万円)	43,242	44,802	45,162
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	4.01	3.83	10.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	36.3	35.8	35.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	202	883	1,278
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	705	497	1,287
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,067	368	2,731
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	6,412	8,592	8,573

回次	第81期 第2四半期 連結会計期間	第82期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.16	3.14

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
 2 売上高には、消費税等を含まない。
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため、記載していない。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業内容の重要な変更はない。

なお、第1四半期連結会計期間において、会社分割により新たに設立した(株)テザック神鋼ワイヤローブを連結子会社としている。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

なお、重要事象等は存在していない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、大胆な金融緩和・財政政策等への期待感を背景として、円高の是正や株価の上昇が進んだことにより先行きの景況感に明るさはみられたものの、中国経済の成長鈍化による減速感、欧州債務問題の長期化など、依然先行き不透明な状況で推移した。

当社グループを取り巻く事業環境は、民間投資関連需要では自動車を中心に持ち直しの動きが見えつつあったが、公共投資関連需要では補正予算の効果などにより回復傾向にあるものの出足は鈍く厳しい状況で推移した。

このような状況に対して、当社グループは、徹底したコスト削減に努めるとともに、高付加価値製品の売上高比率のアップや販売価格の是正に努めてきた。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,720百万円と前年同期に比べ1.3%の減収となったが、営業利益は465百万円（前年同期比12.4%増加）、経常利益は394百万円（前年同期比8.3%増加）となった。また法人税等および少数株主利益を差し引いた後の四半期純利益は199百万円（前年同期比4.5%減少）となった。

当第2四半期連結累計期間のセグメント毎の状況は次のとおりである。

< 特殊鋼線関連事業 >

(PC関連製品) 公共事業関連では、全体として工事着工の遅れなどがあるものの、2013年度公共事業予算が4年ぶりに増加に転じたことから、PC関連市場は前年同期に比べ上向きとなり、販売数量は増加した。民需関連でも、マンション向け需要やプロジェクト物件などが堅調に推移し、全体としては、前年同期に比べ販売数量・売上金額とも増加した。

(ばね・特殊線関連製品) 主要な需要分野である自動車産業向けの弁ばね用鋼線（オイルテンパー線）は、自動車メーカーの国内生産が好調に推移したことに加え、日系メーカーの中国での生産も回復傾向にあることから、前年同期に比べ販売数量・売上金額とも増加した。また、ばね用ニッケルめっき鋼線は、欧州経済の停滞や中国経済の成長鈍化の中、販売数量はほぼ前年同期並みを確保したが、売上金額は減少した。ステンレス鋼線は、自動車関連製品向け需要や住宅関連需要が堅調に推移して、前年同期に比べ販売数量は増加したが、売上金額は減少した。

その結果、特殊鋼線関連事業全体の売上高は6,871百万円と前年同期に比べ1.3%増加となり、セグメント利益は168百万円と前年同期に比べ41百万円の減少となった。

< 鋼索関連事業 >

ワイヤロープの国内需要は公共投資増加を反映し増加傾向にあり、その結果、国内向け販売数量、売上金額とも前年同期に比べ微増となった。一方、輸出については中国の景気鈍化およびコンテナクレーン等大型物件の需要が低迷しており、エレベータ向けの販売増などで取り戻したものの、販売数量、売上金額とも減少となった。

その結果、鋼索関連事業全体の売上高は5,984百万円と前年同期に比べ微増となり、セグメント利益は192百万円と前年同期に比べ77百万円の増加となった。

< エンジニアリング関連事業 >

吊構造用ケーブルでは、橋梁向けの売上金額は前年同期に比べ増加したが、建築向けは減少した。また、落橋防止ケーブルは前年同期に比べ減少したが、道路騒音防止関連製品は前年同期に比べ増加した。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は833百万円と前年同期に比べ25.9%減少となり、セグメント利益は80百万円と前年同期に比べ13百万円の増加となった。

< その他 >

不動産関連事業の売上高は31百万円と前年同期に比べ2.0%増加となり、セグメント利益は23百万円と前年同期に比べ1百万円の増加となった。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、26,488百万円（前連結会計年度末は、26,670百万円）となり、182百万円減少した。主に受取手形及び売掛金が661百万円減少したことによるものである。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、18,314百万円（前連結会計年度末は、18,491百万円）となり、176百万円減少した。主に機械装置及び運搬具が139百万円減少したことによるものである。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、10,450百万円（前連結会計年度末は、10,886百万円）となり、436百万円減少した。主に短期借入金が147百万円減少したことによるものである。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、14,977百万円（前連結会計年度末は、14,986百万円）となり、9百万円減少した。主に長期借入金が27百万円減少したことによるものである。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、19,375百万円（前連結会計年度末は、19,289百万円）となり、86百万円増加した。主に利益剰余金が43百万円増加したことによるものである。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前第2四半期連結累計期間末に比べ2,180百万円増加し8,592百万円となった。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権が減少したことなどにより、前第2四半期連結累計期間に比べ680百万円増加し、883百万円の収入となった。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、関係会社株式の取得による支出の減少などにより、前第2四半期連結累計期間に比べ208百万円増加し、497百万円の支出となった。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の純減などにより、前第2四半期連結累計期間に比べ1,435百万円減少し、368百万円の支出となった。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は129百万円である。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	88,000,000
計	88,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	58,698,864	58,698,864	東京証券取引所 (市場第二部)	株主として権利内容に制限 のない、標準となる株式 単元株式数は1,000株
計	58,698,864	58,698,864	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年9月30日		58,698,864		8,062		2,015

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(株)神戸製鋼所	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2番4号	18,031	30.71
神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	6,624	11.28
神鋼鋼線取引先持株会	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	2,449	4.17
(株)メタルワン	東京都港区芝3丁目23番1号	1,968	3.35
(株)みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	1,512	2.57
日本生命保険(相)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	1,367	2.33
神鋼商事(株)	大阪府大阪市中央区北浜2丁目6番18号	1,000	1.70
神鋼鋼線従業員持株会	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	960	1.63
丸山 三千夫	山梨県中巨摩郡昭和町	866	1.47
三井物産スチール(株)	東京都港区赤坂5丁目3番1号	784	1.33
みずほ信託銀行(株)	東京都中央区八重洲1丁目2番1号	784	1.33
計		36,349	61.92

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,624,000	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式 単元株式数は1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 51,787,000	51,787	同上
単元未満株式	普通株式 287,864	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	58,698,864	-	-
総株主の議決権	-	51,787	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式877株が含まれている。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市中浜町10番地1	6,624,000	-	6,624,000	11.28
計	-	6,624,000	-	6,624,000	11.28

2 【役員の状況】

該当事項はない。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,574	8,594
受取手形及び売掛金	9,845	9,183
商品及び製品	3,851	3,880
仕掛品	2,256	2,370
原材料及び貯蔵品	1,452	1,744
繰延税金資産	308	319
その他	426	449
貸倒引当金	46	54
流動資産合計	26,670	26,488
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,241	4,157
機械装置及び運搬具（純額）	4,445	4,305
工具、器具及び備品（純額）	154	148
土地	6,041	6,041
リース資産（純額）	54	60
建設仮勘定	50	78
有形固定資産合計	14,987	14,791
無形固定資産	245	229
投資その他の資産		
投資有価証券	1,166	1,233
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	1,288	1,243
その他	1,004	853
貸倒引当金	201	36
投資その他の資産合計	3,258	3,293
固定資産合計	18,491	18,314
資産合計	45,162	44,802

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,532	2,620
短期借入金	5,789	5,642
リース債務	22	24
未払費用	1,180	1,183
未払法人税等	244	171
賞与引当金	496	517
その他	620	291
流動負債合計	10,886	10,450
固定負債		
長期借入金	11,595	11,568
リース債務	38	43
退職給付引当金	2,296	2,341
役員退職慰労引当金	58	53
環境対策引当金	8	8
繰延税金負債	520	523
負ののれん	30	-
その他	437	438
固定負債合計	14,986	14,977
負債合計	25,872	25,427
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	2,847	2,891
自己株式	1,353	1,354
株主資本合計	15,911	15,954
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	75	104
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益累計額合計	75	106
少数株主持分	3,301	3,314
純資産合計	19,289	19,375
負債純資産合計	45,162	44,802

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	13,903	13,720
売上原価	11,248	11,004
売上総利益	2,655	2,715
販売費及び一般管理費	2,240	2,249
営業利益	414	465
営業外収益		
受取利息	24	23
受取配当金	9	11
負ののれん償却額	30	30
固定資産賃貸料	24	24
貸倒引当金戻入額	19	6
その他	22	7
営業外収益合計	131	103
営業外費用		
支払利息	88	92
その他	93	82
営業外費用合計	182	175
経常利益	364	394
税金等調整前四半期純利益	364	394
法人税、住民税及び事業税	145	141
法人税等調整額	20	20
法人税等合計	124	161
少数株主損益調整前四半期純利益	239	232
少数株主利益	30	33
四半期純利益	208	199

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	239	232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35	32
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益合計	35	34
四半期包括利益	204	267
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	175	230
少数株主に係る四半期包括利益	28	37

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	364	394
減価償却費	475	486
のれん償却額	30	30
退職給付引当金の増減額(は減少)	43	44
賞与引当金の増減額(は減少)	1	20
貸倒引当金の増減額(は減少)	39	157
環境対策引当金の増減額(は減少)	43	-
受取利息及び受取配当金	34	34
支払利息	88	92
持分法による投資損益(は益)	8	1
たな卸資産評価損	66	-
売上債権の増減額(は増加)	435	826
たな卸資産の増減額(は増加)	306	434
仕入債務の増減額(は減少)	244	87
未払費用の増減額(は減少)	102	3
その他	13	116
小計	696	1,184
利息及び配当金の受取額	33	34
利息の支払額	87	93
法人税等の支払額	440	242
営業活動によるキャッシュ・フロー	202	883
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	345	487
無形固定資産の取得による支出	13	8
投資有価証券の取得による支出	29	0
関係会社株式の取得による支出	325	16
貸付金の回収による収入	0	0
その他	7	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	705	497
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	10,375	7,600
短期借入金の返済による支出	10,075	7,600
長期借入れによる収入	3,200	760
長期借入金の返済による支出	2,196	934
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	155	155
少数株主への配当金の支払額	67	24
その他	11	13
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,067	368
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	564	19
現金及び現金同等物の期首残高	5,848	8,573
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,412	8,592

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年9月30日)	
連結範囲の重要な変更	第1四半期連結会計期間より、新たに設立した(株)テザック神鋼ワイヤロープを連結の範囲に含めている。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
神鋼新鋼線(佛山)有限公司	265百万円	333百万円

(注)上記の債務保証は、(株)神戸製鋼所による債務保証を当社が再保証したものである。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給料及び手当	627百万円	638百万円
運搬費	469百万円	488百万円
賞与引当金繰入額	135百万円	87百万円
退職給付費用	52百万円	41百万円
役員退職慰労引当金繰入額	8百万円	6百万円
貸倒引当金繰入額	19百万円	8百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	6,414百万円	8,594百万円
預入期間が3ヶ月超の定期預金	1百万円	1百万円
現金及び現金同等物	6,412百万円	8,592百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	156	3	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月7日 取締役会	普通株式	104	2	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	156	3	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	104	2	平成25年9月30日	平成25年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,781	5,967	1,124	13,873	30	13,903	-	13,903
セグメント間の内部売上高 又は振替高	621	74	0	697	-	697	697	-
計	7,402	6,042	1,125	14,570	30	14,600	697	13,903
セグメント利益	210	115	66	392	22	414	-	414

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業である。

(注2)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益である。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はない。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,871	5,984	833	13,688	31	13,720	-	13,720
セグメント間の内部売上高 又は振替高	355	103	0	459	-	459	459	-
計	7,226	6,088	834	14,148	31	14,179	459	13,720
セグメント利益	168	192	80	442	23	465	-	465

(注1)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業である。

(注2)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益である。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はない。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりである。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	4円01銭	3円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	208	199
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	208	199
普通株式の期中平均株式数(千株)	52,088	52,077

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【その他】

第82期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年11月8日開催の取締役会において、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議した。

配当金の総額	104百万円
1株当たりの金額	2円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月9日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

神鋼鋼線工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 脇 田 勝 裕

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 辰 巳 幸 久

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神鋼鋼線工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、神鋼鋼線工業株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。